

小浜町のバレイショ作付農家の持続型農業に関する意向						
<p>[要約] 小浜町のバレイショ作付農家は、「青枯病」と「そうか病」に困っており、連作障害対策として「土壌消毒」、「堆肥の施用」、「深耕」の実施割合が高く、「輪作」、「客土」の割合は極端に低い。土壌消毒は春作で89%、秋作で75%の面積で実施されている。環境保全型農業への関心は、「所得とのかねあい次第」33%、「環境への影響に注意すべき」32%という意見の割合が高い。</p>						
総合農林試験場・経営部・経営科	専門	経営	対象	いも類	分類	指導
資料名：平成13年度九州沖縄農業試験研究成績・計画概要集（農業経営）						

#### [背景・ねらい]

近年、作付面積の減少が著しい主要特産畑作物であるバレイショについて、新輪間作体系技術導入の前提条件等を明らかにするため、産地実態を調査する。

小浜町のバレイショ作付農家（島原雲仙農協北串支部191戸）を対象に、経営規模、労働力、作型等について、アンケート調査を実施した。有効回答は152戸（80%）であった。

なお、分析はバレイショ作の収入が経営の主体であるものを類型、バレイショ作の収入が従であるものを類型と区分して行った。また、類型をバレイショの経営規模で4区分した。

調査対象の北串支部は2001年度の部会員農家数が191戸、春バレイショ406ha、秋バレイショ171ha、出荷数量は春作4,190t、秋作2,720tである。

#### [成果の内容・特徴]

1. 連作障害で困っている事項は、「青枯病」30%と「そうか病」25%の2つに回答が集中している。困っている事項についての類型間、経営規模による差異は認められない（データ省略）。
2. 連作障害対策の実施割合は、「土壌消毒」、「堆肥の施用」、「深耕」の順に高く、「輪作」、「客土」は極端に低い。類型のなかでは経営規模が大きいほど各対策の実施割合が高い（表1）。
3. バレイショ作の土壌消毒実施率は、全体では春作89%、秋作75%で春作での実施率が高い。土壌消毒実施面積割合では、春・秋作とも面積の10割を実施する割合は類型が類型より高く、そのうちでも経営規模（50a以下）で10割実施の割合が高い（表2）。
4. 土壌消毒時にビニール被覆をしているのは戸数割合30%程度で、類型が類型より低い。類型の経営規模（50a以下）の全面被覆の割合が高い（データ省略）。
5. 施肥量については、北串支部の基準と比べて、春作が秋作より増肥施用の割合が高い。類型が類型より増肥施用の傾向がみられる。類型の経営規模（2ha以上）では秋作で減肥と増肥の割合が高い（データ省略）。
6. 堆肥については、春作・秋作とも同量が施用されている。類型の経営規模（2ha以上）と経営類型で多施用（2t/10a以上）の割合が高い（表3）。
7. 環境保全型農業への関心は、全体では「環境への配慮も所得とのかねあい次第」33%、「環境への影響に注意すべき」32%という意見の割合が高い。類型の小規模経営で「よくわからない」の割合が高い。類型では「環境への影響に注意すべき」の割合が高い（表4）。

#### [成果の活用面・留意点]

1. バレイショ産地再編方策の参考に活用できる。

[ 具体的データ ]

表1 連作障害対策の実施状況

(単位：％,戸数)

区分	実戸数	土壌消毒	堆肥の施用	深耕	有機物の投入	輪作	客土	未実施農家
類型 (%)	114	86	63	44	27	9	3	2
(50a以下)	15	80	27	33	13	0	0	0
(50~1ha)	32	75	63	33	23	3	3	1
(1~2ha)	37	89	72	61	28	8	0	1
(2ha以上)	35	91	69	40	34	20	6	0
類型 (%)	23	91	73	68	27	9	0	1
全体 (%)	152	88	64	48	29	9	2	4

(注) 各対策は複数回答とした。

表2 バレイシヨ作の土壌消毒実施状況

(単位：％)

区分	土壌消毒実施率	実施面積割合					未実施
		2割	3割	5割	8割	10割	
類型 (%)	86	16	16	20	19	13	14
(50a以下)	93	21	7	21	14	29	7
(50~1ha)	77	5	27	27	14	9	23
(1~2ha)	92	22	16	16	19	16	8
(2ha以上)	85	15	12	29	24	6	15
類型 (%)	100	20	15	25	35	5	0
全体 (%)	89	17	16	23	20	12	11
類型 (%)	73	18	15	23	10	8	27
(50a以下)	78	0	33	22	0	22	22
(50~1ha)	81	15	15	27	15	8	19
(1~2ha)	77	24	9	26	9	9	23
(2ha以上)	63	19	16	16	9	3	37
類型 (%)	82	29	18	12	18	6	18
全体 (%)	75	19	15	22	11	8	25

表3 バレイシヨ作の堆肥の施用状況

(単位：％)

区分	堆肥施用	平均施用				堆肥無施用	
		1t以下	1~2t	2~3t	3t以上		
類型 (%)	97	33	53	9	2	1.25	3
(50a以下)	100	30	60	0	0	1.05	10
(50~1ha)	100	55	45	0	0	0.95	0
(1~2ha)	100	34	60	6	0	1.21	0
(2ha以上)	92	15	46	23	8	1.54	8
類型 (%)	100	11	56	28	5	1.78	0
全体 (%)	97	31	51	12	2	1.24	3
類型 (%)	96	4	37	48	8	1.23	4
(50a以下)	100	14	86	0	0	1.36	0
(50~1ha)	95	52	43	0	0	0.89	5
(1~2ha)	97	42	48	6	0	1.09	3
(2ha以上)	96	24	40	20	12	1.64	4
類型 (%)	94	24	47	18	6	1.47	6
全体 (%)	95	35	47	9	4	1.24	5

表4 環境保全型農業への関心

(単位：％)

区分	環境への配慮も所得とのかねあい次第	環境への影響に注意すべき	所得確保が第一	よくわからない	全く関心がない
類型 (%)	38	33	22	4	2
(50a以下)	11	22	34	22	11
(50~1ha)	30	40	15	10	5
(1~2ha)	38	28	34	0	0
(2ha以上)	54	36	10	0	0
類型 (%)	19	38	38	5	0
全体 (%)	33	32	24	9	2

[ その他 ]

研究課題名：九州・沖縄における地域特産畑作物産地活性化のための新しい持続的輪間作体系化技術の開発

予算区分：国庫1/2 (新技術実用化)

研究期間：平成13年度 (平成12~15年度)

研究担当者：岩坪友三郎、鳥羽由紀子

既発表論文等：なし